

空間情報科学研究センター

I	研究水準	研究 30-2
II	質の向上度	研究 30-3

I 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 研究活動の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究活動の実施状況については、法人化以降4年間における専任教員（現員12名）一名当たりの平均論文数が19.4件、そのうち査読付き論文が6.6件であり、平成19年度については、発表論文数が最多となっている。また、年間・査読付き学術論文数の国際比較においても、極めて優位な位置を占めている。特許出願・取得状況についても、工学系教員は5名であるが、過去4年間で出願件数11件、取得件数4件となっており（平成19年度は出願件数5件、特許料収入件数1件）、活発な研究活動が展開されていることを示している。研究資金の獲得状況については、年々増加傾向にあり、平成19年度専任教員一名当たり獲得額は2,500万円である。共同研究・受託研究等の状況については、平成16年度から平成19年度までの4年間で民間との共同研究34件（平成19年度9件）、受託研究28件（平成19年度7件）であり、民間研究部門10社による寄附研究部門が平成19年度に開設されるなど、活発な研究活動とともに、空間情報科学に関する学術アドバイザー機関としての高い社会貢献度が資金面でも裏付けられている。国際的研究拠点としての活動状況については、国際ワークショップ等の開催（平成19年度11回）や国際共同研究プロジェクトの実施において、国際的な研究拠点の一つとして積極的な活動が続けられるなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

「共同利用・共同研究の実施状況」のうち、共同研究の実施状況については、特に平成16年度以降著しく増加し、平成19年度の採択件数は58件（理工系40件、人文社会系18件）となっている。その成果については、平成19年度共同研究一件当たり0.79件の査読付き論文が発表され、国内や海外での学会発表、修士・博士論文での利用も多い。共同利用施設の稼働状況については、施設の核となる空間データ基盤システムの平成19年度利用者数は249名、データダウンロード回数8,717回であり、アドレスマッチングサービスの月当たり変換レコード件数は1,000万件前後（1,500万件、4,700万件を超える月もある）となるなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、空間情報科学研究センターの目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、空間情報科学研究センターが想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

2. 研究成果の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、センターの共同研究が様々な学術分野、社会応用分野において世界に先駆けた成果を生んでいる。特に、地理情報システムを体系的に構築して、現代イスラーム世界の動態を明らかにしたイスラーム地域研究は、共同研究による卓越した研究成果である。社会、経済、文化面では、空間情報科学の理念を実現させるためのツール開発において卓越した成果を上げている。特に、デジタル写真から疑似的3次元空間を作成できる PhotoWalker は利用・適用範囲が広く、その社会的な有用性が高く評価されている。これらの状況などは、優れた成果である。

以上の点について、空間情報科学研究センターの目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、空間情報科学研究センターが想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している

当該組織から示された事例は2件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」と判断された。